



鷹野雅生 議会速報

# GASHIN

Vol.11 2014.12

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47  
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2-4 防災・周知方法の徹底
- 5 " 答弁
- 6 学力向上
- 7-8 学力向上 質問&答弁
- 9 防災・周知方法の徹底  
再質問と要望
- 10 防災・周知方法の徹底  
" 答弁
- 11 学力向上 再質問と答弁

## はじめに

皆さん、おはようございます。

八幡みどりの市民の鷹野雅生です。

本日2番目の質問をさせていただきます。  
しばらくの時間、おつき合い願います。

それでは、通告にしがたい質問させていただきます。

---

### "GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

# 防災・周知方法 の徹底

1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

+++++ 八幡市の観光名所 +++++

私は4年前八幡市議会に議席をいただき、以来、議会での質問では京阪八幡市駅前の環境整備を提案してまいりました。今、日本の将来の柱の一つに観光立国が挙げられていますが、観光となれば京都です。今や年間 5,000 万人を越える観光客を迎える京都です。

観光立国を支える京都の八幡市でなくてはなりません。また、八幡市には何と申しまして石清水八幡宮という全国に知られたお社があり、大切な観光資源です。

京都府の南部に位置する自治体の中にあっては、地勢といい観光資源にも恵まれた環境にあると考えています。

今、群馬県の富岡製糸工場跡が連日大勢の観光客で賑わっています。まさに世界遺産効果です。一方こちらの観光地として、ときならぬ賑わいを見せているところに、兵庫県の竹田城跡と長崎県の軍艦島があります。

竹田城跡は城跡ですから何もありません。石垣だけです。なのに観光客が引きも切らずにやってくるのです。日本のマチュピチュというわけです。ものの見方、視点を変えることで人を呼ぶことができるという一つの学ぶべき教材です。

長崎県の軍艦島に至っては廃墟だったところですが、今や観光スポットになっているのです。時代の変化と観光客のニーズも変わりました。ただ単に、きれいだから見に来てください、だけでは人は呼べません。視点を変え、発想を変えれば、廃墟さえも観光地に再生させることができるという、これも学ぶべき教材でもあります。ましてや、我が八幡市には石清水八幡宮という全国に知られたブランドがあり、市内各所に観光スポットが配置されています。石清水八幡宮を中心に全市的な新たな視点、新たな発想が今求められています。

石清水八幡宮の麓にある八幡市駅は、八幡市の玄関口です。家と同じです。玄関は美しくないといけません。1歩玄関に入っただけでその家のことが大体わかるものです。八幡市駅前も同じです。私が毎回駅前の環境整備を提案してきた理由です。

では、個別にまいります。

八幡市駅に、長年の懸案でもありました駅舎のエレベーターが設置され、バリアフリー化が完成し、トイレがリニューアルされ、駅前交番もできました。

平成 24 年には駅前観光案内所もリニューアルされました。観光情報の発信につきましては、スマートフォン対応で新たなアプリケーションやマップを活用して充実し、ホームページもリニューアルされ、情報量もふえて見やすくなりました。また、SNSやソーシャルメディア、ツイッター、フェイスブックを活用して八幡市の観光情報を積極的に情報発信されています。

昨年はJR東海の観光キャンペーンをきっかけに、駅前周辺の活性化を目指して駅前ライブ事業、駅前の空き店舗を活用したふれあい館事業、空き店舗前の大型観光案内版設置事業、老朽化し

# 防災・周知方法 の徹底

## 1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

た空き店舗を覆う事業などを実施され、今年は駅前にお土産ハウス、たけちゃんのこちゃんがオープンしました。少しずつではありますが、駅前が様変わりしてきたと思います。

以前と比べると駅前の整備が進む中、観光客がふえてきたように思います。石清水八幡宮や松花堂を初めとする八幡市の名勝、旧跡に多くの観光客をお迎えする玄関口としては、一定の形が整った感じがいたします。

しかしながら、現状では八幡市に多くの観光客を誘致できるのは、石清水八幡宮の正月初詣と三川合流域の背割堤のやわたさくら祭りの賑わいだけではないでしょうか。この八幡市に生まれ育ち、八幡市の発展を願ってきた私にとっては、もっともっと活気あふれる八幡市であってほしいし、これからの八幡市を背負っていく若者たちが生きがいと生活の糧をふやせるよう、情報が提供できるのではないかと日々考えています。

現在、三川合流地域において、国土交通省淀川河川事務所では、平成28年度完成をめどに、背割堤地区公園サービスセンター整備計画があり、サービスセンターには周辺を見渡すことのできる展望塔のほか、情報発信ができるスペースなども設け、人が集い賑わいのあるイベントが開催できる施設にされると伺っています。

背割堤地区公園サービスセンターができると、ますます三川合流域の集客性が高くなってきます。駅前周辺も賑わいが出ると期待しています。

四季を通じて背割堤を見ますと、春の桜満開の背割堤の見事な美しさは最高ですが、その後に訪れる新緑の季節、そして夏の桜も迫力満点です。堤防全体が緑で覆われ、緑陰が木津川、宇治川の風に揺られて心地よい散歩道となります。満開の桜以上の美しさです。秋の桜も風情があります。真っ赤に紅葉した桜はきれいです。木枯らしの季節になると、一面枯葉の敷かれた上を歩く贅沢は、ほかでは味わえません。冬の桜も見事です。1本1本がよその桜並木にはない巨木揃いです。1本1本の存在が芸術作品です。ところどころにエノキの巨木やハナミズキもありますが、あれほどまでの桜の巨木にまで育ててくれた八幡市の先人に感謝せずにはられません。桜の名所はたくさんありますが、背割堤のような桜の長いトンネルを楽しめるのは全国のものにもないと思います。三川合流地域は背割堤の桜だけでなく、河川敷にはヨシなどが茂り、野鳥や昆虫が多く見られるなど、都市近郊では貴重な自然の宝庫です。八幡市には背割堤という最高の舞台、最高のスポットが存在することを改めて認識し、多面的な展開を図っていただきたいと考えています。何よりも、時代のニーズに合った観光地、八幡市の宝となるべき観光スポットであると思います。大切なことは、桜は春だという発想を変えることです。桜の季節だけでなく、四季折々の背割堤をもっと賑わいのある環境にしていかなければいけないと思います。背割堤の桜の花の季節は招かなくても人は来ます。満開を過ぎてからの美しさ、素晴らしさ、冬の桜さえ美しいと感じる感性を大切に、三川合流地域においては背割堤を素材に、あるいは舞台にした新たな企画が必要となります。

総務省の平成24年10月7日発表の統計に、平成23年社会生活基本調査の生活行動に関する調査結果から、日本のスポーツ実施状況について、過去25年間の時系列的な推移が取りまとめられています。現在最も盛んなスポーツは、男女ともにウォーキング、軽い体操と楽しむ人が多く、手軽で幅広い年齢層で行われるスポーツを楽しむ人が多いようです。

# 防災・周知方法 の徹底

## 1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

ここで注目したいのが、登山、ハイキングは60歳以上だけで楽しむ人がふえています。サイクリングを楽しむ人は20～70歳以上の幅広い年齢層で人気上昇していると伺っています。つまり、ハイキングもサイクリングも手軽な、とっつきやすいスポーツであると認識されています。このように、若者から年長者まで幅広い層に人気があり、今後も伸びていく可能性のあるサイクリングやウォーキングを活用し、八幡市の観光名所、ロケーション等を生かしながら、地域の活性化を図っていかうという提案であります。具体的には、淀川河川公園の背割堤地区にサイクリングの中継スポットをつくり、府道京都八幡木津自転車道の桂川、木津川に沿って走る総延長45キロメートルのサイクリングロードを活用し、奈良県、大阪府へと広がるサイクリングを楽しんでもらうことができます。府道京都八幡木津自転車道は自転車愛好者がふえる中で注目度が年々高まっています。背割堤は三川合流部等の豊かな自然環境、観光資源を最大限に生かしたサイクリングロードの中間地点にある最高の中継スポットになります。

そこで、お伺いします。

### 質問

- ① 年間を通じての背割り堤一体の活用方法について  
⇒平成28年度完成をめどに背割堤地区公園サービスセンターの建設が計画されていますが、年間を通じての背割り堤やサービスセンターをどのように活用されようとしているのか市のお考えをお聞かせ下さい
- ②観光基本計画の具体的な取り組みについて  
⇒三川合流部整備促進の中に、広域的なサイクリングや地域情報、地域間の交流拠点としての活用や自然災害の学習、また災害時の拠点施設となるよう整備を促進するとありますが、具体的にどのようなものをお考えおられるのか。また、調査をしているのかお聞かせ下さい。
- ③背割堤の活用方法について  
⇒背割堤はサイクリングロードの中間地点にあり、サイクリングの休憩スポットにも最適です。よって、サービスセンターの活用の一つにサイクリングの休憩スポットとして活用してはどうでしょうか。素通りの施設ではなくて、休憩スポットに来た人に八幡市の魅力を発信できる休憩スポットになってほしいと考えています。
- ④サイクリングロードについて  
⇒背割堤地区公園サービスセンターの整備に伴い、ますますサイクリングロードの利用者がふえると考えておりますが、サイクリングロードの利用者が市内にも来ていただくことが重要であると考えます。サイクリングロードの利用者が市内観光施設にも来ていただきたいと思っておりますが、どのようにお考えでしょうか。

# 防災・周知方法 の徹底

1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

## 答弁

### ① 年間を通じての背割り堤一体の活用方法について

⇒現在、国土交通省において設置計画が進められているサービスセンターにつきましては、利用者のための利便施設のほか、物販、自然・歴史の学習、防災関連情報の提供スペース、また、市民活動などを披露できるステージなどの設置を望んでいるところでございます。このサービスセンターを通して周辺市町との交流、地域の賑わいや活性化につながる取り組みを行う場として活用してまいりたいと考えているところでございます。

### ② 観光基本計画の具体的な取り組みについて

⇒現在、国土交通省において、学識経験者や地域の関係者らから助言を受けることを目的とした三川合流域拠点施設検討委員会を設け議論されているところであります。今後、当該検討委員会の議論結果を受け、その利活用について具体の検討を行ってまいりたいと考えているところでございます。また、サービスセンター活用に向けた調査につきましては、これまで行ってまいりました七夕祭りでのアンケート調査や、淀川河川公園上流域地域協議会における周辺市町との意見交換などを行ってきた経過がございます。

### ③ 背割堤の活用方法について

⇒サービスセンターは中核的な交流施設の機能を持ち、テーマルートの周遊を支援するため、休憩や地域情報発信などに対応されるものと伺っております。また、今年3月に改訂いたしました八幡市観光基本計画においては、サービスセンターを広域サイクリングロードの基地としても活用するとしております。引き続き、三川合流域拠点施設検討委員会において、サイクリングをされる方々の憩いの場になるよう要請してまいりたいと考えております。

### ④ サイクリングロードについて

⇒サービスセンターには広域サイクリングロードの拠点として情報発信スペースを設置されると伺っており、誘客に向けた取り組みとして、市内の観光施設等の情報提供に努めてまいりたいと考えております。

## 2つ目の大きな柱「学力向上」

### +++++ 教育環境の充実 +++++

まず初めに、堀口市長におかれましては、京都府一番の学力を目指し八幡市の教育環境の充実を図ることで、本市児童・生徒の学力向上に大変力を入れて政策を展開しておられることに敬意を表したいと思います。

申すまでもなく、教育は国家100年の大計と言われており、長い目で見て国の将来を形づくるもので、今後の国力を養う力が教育にかかっています。

日本がああ明治維新の後、短い年月で先進国に追いつけたのは、江戸時代の幕藩体制の中にあっても各藩が独自に教育を重視し、人材育成に取り組んでいたことや、その後明治政府による、いち早い学制の実施により、全国の津々浦々に学校教育が展開され、国民の教育が日本の近代国家成立に大きく貢献していたことは、まさに教育が国家100年の大計であったことの証明ではないでしょうか。

先人の教育にかける思いや学ぼうという気持ちが今の私たちの生活を支えているとするならば、100年後の国民に恥じない教育が今求められているのではないのでしょうか。

以前、市長のご答弁では、子どもたちの教育の充実のために目標を大きく持って、ただ一喜一憂することではなく、施設の充実を図るにしても、改善するところは大幅に取り組むことが大切だと語られ、これを市民と協働して進め、形を変えたまちづくりの一環としたいと、教育によるまちづくりの市長の熱い思いがわかりやすく語られていたことを思い出します。

この学力京都府一番を目指すために、この間学校への人的な支援体制の強化として学習支援員の配置を初め、図書館司書の全小・中学校配置、全中学校に英語科外国人講師の派遣などを行うとともに、ハード、ソフト面では教材備品の充実や中学校英語検定受験料の公費負担や体験学習の充実等、学校の教育環境の充実により学力向上を目指す施策を具体的に展開されました。また、学校以外での放課後行動学習支援事業として、市内全小中学校で放課後学習クラブを実施する市内全小・中学校を対象として教育集会所で学習支援事業を行っておられます。まさに児童・生徒のための総合的な政策の展開であり、本市の教育環境の大幅な改善が図られると考えております。

このような数多くの教育施策が効果を発揮し、さらには相乗効果となって学力が向上し、本市の教育が府内でも一目置かれる存在になってもらいたいものと念願いたしております。

とは申しましても、一朝一夕には結果が出ないのが教育です。結果を急ぐ余りに拙速になってはいけません。それぞれの取り組みがどのような効果を生み出しているのか、冷静な評価なり分析を怠ってはならないと私は考えています。長期に継続して取り組みを見守る目と、短期的に効果を見きわめ改善する目の両面が必要なのではないのでしょうか。そこで、学力の一つの指標として、毎年4月に文部科学省が実施されている全国学力学習状況調査を取り上げたいと思います。

一時は抽出された学校と自主的に希望する学校が参加する形でありましたが、昨年度からは全ての学校が参加する形となり、今年も4月に全国の小学六年生、中学三年生を対象に行われ、本市の児童・生徒ももちろん参加しています。この全国学力学習状況調査の中で、教科に関する調査は国語と算数、数学で行われ、それぞれ主として知識に関するA問題と、活用に関するB問題として実施されています。A問題は、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等の調査でした。

## 2つ目の大きな柱「学力向上」

また、B問題は、知識、技能等を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て、実施し、評価、改善する力等に係る内容の調査だったと聞いています。

つまり、Aを基礎問題、Bを応用問題と見ることもできます。私も小学六年生の問題を見てみたところ、Aはともかく、B問題の文章が、Bは問題の文章がやたらと長かったり、問かけが複雑で、正直言って難しかったです。ふだんから長い文章になれていないことには答えにくい問題が多いように思いました。この全国学力学習状況調査の結果の公表については、さまざまな議論があることは十分承知しております。

結果に一喜一憂することもないとは思っております。しかし、一つの指標としては大変重要なものであり、この全国の調査結果から本市小・中学生のすぐれたところ、足りないところを冷静に評価、分析願い、ぜひ施策に還元していただければと願っています。

そこで、お伺いします。

### 質問

#### ① 全国学力学習状況調査の結果について

⇒今年4月に実施された全国学力学習状況調査の結果から、本市小・中学生の学力をどのように評価、分析しておられるのか、お聞かせください。

### 答弁

#### ①全国学力学習状況調査の結果について

⇒まずは各学校で授業改善のために結果の分析・評価を行うことが一番重要であると考えています。今年度の八幡市全体の結果の評価・分析について、主に市として、知識に関するA問題と活用に関するB問題に分けてお応え申し上げます。

小学校では、算数Aは全国平均を上回り、その他の調査は全国平均を下回りました。細かく領域ごとに見ていきますと、国語Aでは特に読む能力に課題が見られましたが、国語Bの各能力の条件に基づいて自分の考えを書く問題は全国平均を上回っております。算数Aの基礎的な計算は全国平均を大きく上回りました。算数Bでは数量、図形についての知識、理解の項目、特にグラフの特性に関する問題に課題が見られました。

中学校では、国語、数学のA、B問題とも全国平均を下回りました。領域ごとでは、国語Aは話すこと、聞くことに課題があり、国語Bでは書くことに課題が見られましたが、表現技法の理解については全国平均をかなり上回っております。

数学はA、Bとも、量と測定の分野での課題が大きい状況です。また、小学校と同様に基礎的な計算問題は全国平均より高い状況でございます。全体的な評価でございますが、八幡市の子どもたちは、基礎的な力は一定身につけていると分析しております。また、正答数の分布から、全国平均に比べて八幡市は散らばりが大きい状況にあります。

## 2つ目の大きな柱「学力向上」

次に、学力向上施策として、今年度から新たに取り組まれている男山地区スタディサポート事業についてです。

学びたいという意欲のある児童・生徒を対象とした男山スタディサポート事業が男山地域の児童・生徒を対象に試行的に実施され、特に中学生対象事業では、他の市町村ではほとんど見られない民間教育機関である塾を活用している点に、事業の発表当時、多くの新聞でも取り上げられ、注目を集めたところでした。

公設の学習塾であり、入塾テストや学力中間層を対象としたために、批判もあったように感じました。学ぶ意欲のある生徒が学びたいと思っても、家庭の経済状況やさまざまな事情から学ぶ機会が少なくなっているとしたら、それは子どもの人生において大変な損失ではないでしょうか。学校においては全ての生徒を対象として公教育としての使命を存分に発揮するべき役割があります。今回の事業は学校教育を補完し、子どもたちの未来を支える可能性のある大きな事業ではないかと考えています。

そこで、お伺いします。

### 質問

#### ① 男山地区スタディサポート事業について

⇒ 現段階での男山地区スタディサポート事業の現状はどのようになっているのでしょうか。また、今後の事業の展開についても教えてください

### 答弁

#### ① 男山地区スタディサポート事業について

⇒ 中学校対象事業ですが、生徒たちはしっかりと学習に取り組んでいます。週2回の定期講座だけでなく、定期テスト前の対策講座には参加者の半分以上の生徒が毎日やってきて、自主的に学習を進めており、その指導、支援に当たっております。定期テストでは得点が上がったと喜ぶ生徒も多くおり、学習へのモチベーションも高まり、さらなる学習への取り組みを進めるという好循環も見られます。保護者会も積極的に開いていただき、保護者からもおおむね好評の声を聞いております。事業の成果については、学力テストの変化はもちろんでございますが、アンケートに見る学習意欲の向上など、総合的に評価をしてみたいと考えております。今後でございますが、3年間の試行として行ってまいりますので、来年度の事業を進めるべく準備し、現小学六年生から中学二年生を対象として、来年1月には保護者説明会を実施し、広報・周知するとともに、2月に実行審査、3月に新年度の授業開始と進めてまいりたいと考えております。

## 再質問と要望

1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

### 再質問

#### ① 背割堤地区公園サービスセンターの具体的な問題について

⇒サービスセンターの整備後、木津川沿い、宇治川沿い、桂川沿い、淀川沿いを走る広域サイクリングロードの基地として、サイクリングしている人が気軽に立ち寄れる施設になってほしいと思いますが、サイクリング自転車はスタンドがついていないものが多いのが現状です。

サイクリング自転車をとめることができる専用の駐輪施設をつくることは考えておられるのか、また、自転車の整備や修理が簡単にできる場所の提供についてはどのように考えておられるのか、お伺いします。

#### ② レンタサイクルについて

⇒背割堤地区には観光協会のレンタサイクルで訪れる方をよく見かけますが、自転車は大分古くなっています。

更新の時期が来ているのではないかと思うのですが、よその観光地のレンタサイクルの中には、若い人が乗りたくなるような自転車や、楽に軽く走れる自転車、また、地域にちなんだ名称をつけている自転車もあり、レンタサイクルの利用者が市内各所の観光施設に行かれています。気軽にサイクリングを楽しんでもらうためにも、新しいレンタサイクルが必要だと思いますが、レンタサイクル更新の予定はいかがでしょうか。

### 要望

①八幡市には背割堤という最高の舞台、最高のスポットがあります。背割堤は三川合流部等の豊かな自然環境があり、豊かな自然を見にきていただきたいと思います。そのためにも、サイクリングや背割堤を歩いて楽しむことや、体力づくりの場、健康づくりの場、またイベントなどの開催ができるふれあいの場、人と人とのコミュニケーション、絆を深める場所、学習の場所など、いろいろ活用方法はあると思います。背割堤を素材に、あるいは舞台にした新たな企画がこれから必要だと考えております。地域の活性化のために、市として積極的に考えていただきますように、お願いいたします。

②平成25年度に、この背割堤にスポットを当てた観光パンフレットを作っていただきました。私も新しいパンフレットを拝見させていただきますと、わかりやすい魅力的な春夏秋冬の写真を入れていただき、いいパンフレットに出来上がったと思っています。このパンフレットも活用していただき、背割堤の魅力を発信して、春以外の季節も観光客の誘致を図っていただきたいと思っています。

1つ目の大きな柱「地域の活性化と背割堤地区について」

### 答弁

#### ①背割堤地区公園サービスセンターの具体的な問題について

⇒サイクリング利用者専用の駐輪施設等についてですが、サービスセンター設置に向けた検討委員会の中で、自転車を利用しての来場を想定し、駐輪施設を設ける計画とされています。

また、自転車の軽微な整備や修理ができるスペース確保についても国土交通省に要望してまいります。

#### ②レンタサイクルについて

⇒議員ご指摘のとおり、観光協会で運営しておりますレンタサイクルは導入後10年以上が経過し、利用者からも更新してほしいとの声も伺っております。

ご意見も参考にいたしまして、来年度のレンタサイクルの更新に向けて検討してまいりたいと考えております

# 学力向上 再質問と答弁

## 2つ目の大きな柱「学力向上」

全国学力学習状況についての教育委員会としての見解についてはわかりました。先ほども述べましたが、結果に一喜一憂するつもりはありません。もちろん、毎年受ける子どもたちが変わっていることも理解しております。ただ、この全国学力学習状況の一つの手がかりとして、学力向上への改善を図っていただきたいと考えております。

男山スタディサポート事業についてはわかりました。特に中学生の民間教育機関を活用した取り組みが一定軌道に乗りつつある状態も理解しました。3年間の試行ということで、来年度は年度途中からではなく1年間を通しての事業展開もでき、一層の学力向上への寄与があるように感じました。また、民間でのノウハウを十分に生かされているとも感じております。今後の取り組みに期待いたしております。

### 再質問

- ・全国学力学習状況の評価・分析について  
⇒各学校がそれぞれ分析しているとのことですが、それが各学校の指導計画にどう反映しているのか、各学校の教育計画を見ただけではわかりにくい点がありますので、ご説明ください。また、教育委員会としての評価はどうあるのか、八幡市全体を眺めたときに見えてくる取り組むべき課題は何なのかをお聞かせください

### 答弁

各学校の分析・評価をどのように反映しているかという点でございますが、学校全体で分析・評価した内容を国語や算数、数学の実施教科だけではなく、学校全体として改善を図る対策を立てております。

具体的には、小中連携や家庭学習の内容等の充実、補充の充実などの取り組みを進めているところでございます。

また、家庭、地域にもご理解とご協力をいただくため、全国学力学習状況調査だけではなく、さまざまな方法での実態把握をもとに、各学校が作成しております学校マニフェストにあらわすとともに、学校便りなどでも周知を図っているところでございます。市教育委員会といたしましては、学校からのヒアリングなどを通じて各学校の取り組みを支援するとともに、各学校の課題を解決するため、指導主事の学校訪問や学習支援員の配置などの指導、支援を実施しているところでございます。先ほども申し上げましたが、市全体では個々の児童・生徒の学力差が大きな課題であると考えております。今後も習熟の程度に応じた指導や少人数指導、発展的な学習、補充的な学習などの個に応じた指導の充実により、学力向上に努めてまいりたいと考えております。